付録

Babad Tanah Jawi（ジャワ年代記）

〈295〉この付録には Babad Tanah Jawi (ジャワ年代記)の中の Panembahan Senopati と南海の女王陛下に関するエピソードを収録する。

KINANTHI (邂逅)

1) Senopati と女神様があっている間の二人のゆったりとした方法で Senopati は先ほどの老女に見えたように女神様の容貌が実際にははっきりとわからなかった。

Dewi Ratih

2) その後しばらくすると女神さまの顔は魅力的になり、Ratih[1]のような女神さまの美貌に惹きつけられ Senopati と女神は互いの視線を探したのであった。〈296〉

3) 宮殿に着くと、Senopati のみならず女神も手のひらを開いて黄金でできたチュンパカの上に座り、女神はその体をくねらせたので Senopati は彼女を盗み見していた。〈296〉

4) 女神の美しさを見ていて、女神は人間ではないということに気づき急に不安になり Senopati は女神の宮殿の庭を見て回った。

Gatotkaca

5) 崇敬された庭の美しさ、古い金の寝台、Gatot Kaca[2]と猿王が空中で争い口論した時代に海に放り込まれた寝台

6) 霊界の存在に守られた大洋の真ん中に落ちて、美しい庭、威厳ある星々がちりばめられ、赤い真珠、各種のエメラルド

7) その床はやや高く金で装飾されその端はプラチナで、全開の花を形どった彫刻の装飾で

[1] ジャワ帳で信じられているヒンドゥー教の月の女神
[2] マハバラタの重要登場人物

8) キラキラ輝いて涼しく感じ寝台の装飾は宙まで届く光が見られ、威厳ある光が輝いて、女神の城から出た光線にあたり、太陽が曇ったように見える

9) 大きく高い城門はその頂部が大変美しいダイヤモンドで装飾され、太陽光線のような光を放っていて、昼間のような夜であり昼夜は同じになっている。〈297〉

10) 女神の宮殿での出来事を十分に長く話し合った後、心を開きあった Mimi と Minutuno のように Senopati と女神を離れ離れにすることはできなかった。

11) 女王様の顔が見えた時それは天国の女神 Habsari の容貌より優れていて、その立ち居振る舞いは恋心を掻き立てその美貌は心を虜にした。

12) 女王は顔かたちを変える超能力を有していて一日に七回変化し完璧な輝きを持つ美貌になったり、時にはとても年寄りになり、女神の行動の音楽が聞こえると kelingsari の乙女のように変化した。

13) 命令を下している時はいつでも、子供を失った女やもめのように、東の水平線から太陽が出ようとする時は容貌が天女のようになり、Kurawa[3]の女神のように悲しみに暮れているように馬に乗るのである。

14) 大太鼓の時クディリの娘に似ており、Banowati[4]のように太陽が沈む時、女神 Ratih のように変化するとき、夜になると美貌はさらに増す。〈298〉

15) 高度な超能力をもって女王は幽体同様に 1000 回も姿を変え、男になることもでき、女神の超能力の高さのゆえに世界中に存在するのである。

16) 降伏していない人、霊体と生きているジャワの人間すべて、すべての王は降伏し南海の女王だけを彼らは畏怖し、服従し毎年捧げものをする。

17) メラピ山とラウ山、大洋で王冠をかぶったものである Raja Pace と Nglodhaya、クルド山とウィリス山、Bledug の九つの泉、Kuwu 女王、すべてが臨席する。

18) 七本の榕樹[5]と倒された榕樹、榕樹の巨木、白い榕樹、Ngroban の森の中

---

3 マハバラータの重要登場人物ののひとり
4 マハバラータの重要登場人物ののひとり
5 ベンジャミンの木

に、すべては大洋に支配されて、Kebareyan Tegal Layang、Dlepih とパチタンに。

19) ジャワ全土に広がった霊界の諸王のすべては献身したが、Krendhawahaaji に対抗する Guwaterusan に命じられた Galuh だけは臨席しなかった。

20) 美しい衣服をまとった乙女たちに提供された食べ物と酒、甘い飲み物 Senopati と南海の女王に戻って話そう。

21) 伝統舞踊の踊り手が前に出て心を落ち着かせるようなその所作、心を奪う踊り手のいろいろな動作と美しいガメランの歌が始まる。〈299〉

22) Senopati は大変驚いて魅入られて音楽のうねりに従って揺れる動きを見、音楽は心を落ち着かせ、美しい女神たちの容貌に長いこと目を奪われた・

23) 目前の光景以外と南海の女王に対しても考えられることはなく、歌い手に比べると黄金の光を放っている女神はより美しかったので心臓がどきどきした。

24) Senopati は心の奥にある愛情を隠そうとしたが、その視点をずっと野放しにしておかず、女王をちらちらと見、心の中の葛藤を止めず、南海の女王はこのような種類の人たちではなく、女王は本当は霊界の存在であることを Senopati は思い出した。

25) Senopati の最も奥の感情の中で、(K.241)地上を支配するための目的を達成するべく失望感が追随したが、Senopati が何を考えているかを女王は既に察知していた。

26) 心の中で海の女王に「私が結婚する必要がないとしたら王妃になる必要は必ずしもなく、影響を与えることがない男性になったほうがよい」と話した。〈300〉

27) 既に私の誓いとなり永遠に独身でいて希望を待ち続けるための目的をもち後日迷惑となり、努力はするが傲慢になる。

28) マタラムの支配者はその国のことを忘れるべく大洋が好きになり、女王は心に任せて微笑み顔を伏せて目を左右に動かして Senopati をちらりとみて、Senopati は失望した。

29) 芳香を漂わせる女神を盗み見してもその感情ははっきりとはせず、優雅にこういった「私が求める美しい乙女、宮廷内の壮麗さを私は長いこと見た。

30) あなたのベッドを私はまだ知らない。あなたのベッドはどのように見えるのだろうか」と。女王はそれに答えて「あなた次第でそれを見なくてはならないとその形は美しくありませんし、だれが所有しているのでしょうか、私はただそれを守っているだけです」

31) すぐに二人は移動し、Senopati と女神は気持ちよいベッドにやってきて美しいカーペットの上にゆっくりと座った。Senopati は不思議そうにそれを見た。

32) それはいろいろな Sri Kumendhung の装飾がなされ天国が映ってきたようだと感じられ、女王は Senopati に「これがその形で、所有者がいないのでベッドは悲劇の寡婦なんです」と言った。〈301〉

33) かぐわしい女神を横目で見て微笑を浮かべながら Senopati は「妹よとてもかわいそうだ。寡婦であるだけとの言葉でしたが実際には宮殿を越え、あなたの宮殿と同じものは存在しない。

34) Sri Kumendhung の装飾を僕は初めて見、ベッドはすべて美しく、その所有者にぴったりで美しい形をしていて調和している。

35) この宮殿を見て僕は Mataram に戻るのが嫌になってしまったが、一つだけ残念なことがある。それは素晴らしい男性を所有していれば男性がいないほうがよい。

36) 妻に忠実な素晴らしい男性とバランスの取れた美しい女性の原則はその

女性が夫に忠実でたくさんの子供を作ることだ」と Senopati は流し目で誘ったのだった。

37) 女神はうなだれて座り微笑みながらやさしく「夫を持たないことは良く、夫を持つ人は増え、一人でいるほうがよく、邪魔するものはいないから」と言った。(k.243)

38) 「抱き枕とともに敷布の上で気ままに寝返りを打てる一人寝の方がよく、しなくてはならないことがないから」と。Senopati は微笑んで見て「その通り、妹よ」<302>

39) あなたに対して不思議に思うことは、海岸地方に一人の男性がいてその男は海を見ながら同情と憐れみを求めていて、それどころか宮殿の中にむりやり縛り付けられていることだ。

40) 女王は最後には迷ってしまい、心に触れてその男の腹をつねり、Senopati を誘惑するように微笑んで横目を使い Senopati の心をつかみ、穏やかに言った。

41) 「この私は簡単に申し上げただけで病気だったので海に来たのです。恋の病の薬になるようなものを長いこと得ていません。

42) 僕は世界中を旅してそれを得ようとしたのですが、病気の解毒剤になるものはあなたを置いてありません。病の時に適切なのは恋の病を治せるもの、僕に対する誠実な愛情なのです」。

43) 女神は Senopati を見ながら顔をしかめてうつむいたが、男性に対して常に度胸があり、Senopati に対して女神は「あなた、それは嘘を言っているのではありませんか、私の考えは間違えていないでしょう。

44) 口では薬が欲しいと言ったが、本当は病気でもなんでもなく、王になりたいという病気であり、師匠に敵対するのは気分が悪く、Pajang 国の支配権を掌握すると命令があった」と誘った。<303>

45) 最後に女神は Senopati に言った。「Mataram に住んでいて海まで放浪して

きた美しい王子に何が不足しているのか。心の病になるものは治療できないと。

46) 私は本当に医者ではなく、あなたが考えている恋心がとぼることには影響しないだろうし、ジャワの地を支配する更に王の中の王になる者が同じ王に脅かされるのです。

47) Mataram に住んでいる者にとって、確実に必要とするときに美しい一流の女性が不足することはないし、いずれにせよ一流の人達に用意された女性がいる。

48) 腰巻を巻いているので男性に対面するのが不得手な臆病な女性だから、私が一人でいる間に王国に忠実な夫を持ちたいと思ったことがあった。

49) 私の身体を必要とされたとしても、Mataram の貴族に対する忠誠のためにだけ許される」。Senopati は南海の女王の甘美さを見て楽しみながら女神の言葉を聞いたのだった。〈304〉

50) 時間がたてばたつほど Senopati の心は耐えきれなくなり、そっと Dewi の腕を触り、Ratna Dewi は優しくこういった。「ああ王子、病気になるわ。王子、本当は何をしたいのですか?最後には私の手と腕をさすりながら。

51) Mataram の支配者は手の指を作り出すことはできないにもかかわらず、私の手の指は小さくて、もし折れたらだれが替わりになるのかしら」。Senopati は微笑みながら「ああ美しい人よ怒らないでください。

52) 私はあなたの手を取り、いとしい人よ、誤解しないでください。ただあなたの指輪を見たいだけです」と言った。その後 Dewi は丁寧に「あなたが私の指輪を見たいのが本当なら、遠くから見てもいいですよ。

53) それは本心でないのは当然で、指を触る振りをして何かを望んでいるのは当然で、思いははっきりしているのが見えるから確実な愛の約束をしてほしい」と答えた。

54) Senopati は微笑みを浮かべながら歌を口ずさんでほめそやし、その声は心を開かせるほどほれぼれとするものだった。美しい女王はすでに魅せられて、その恋心は Senopati に向って開かれ、女王のほほえみは男を虜に

し、Senopati は彼女の恋心に触れたのだった、

55) Dewi はゆっくりと話しながら Senopati の膝の上にもたれかかり、自分に向けたその希望を拒まず、その生きとし生けるもの希望を満たしたのであった。〈305〉

56) 世界を支配する Sang Hyang Wiku の生まれ変わり、Senopati は Dewi への期待は支障なく、象牙でできた木偶人形のように膝の中で親しく見つめあうのであった。

57) かぐわしいベッドに運んで入り絹の肩掛けで覆って Senopati の望みをやってこさせ、ヤシの双葉の中にある満開の花のように美しい女王に常に親しく。

58) 霊体を伴った Parahyangan の悪霊と悪魔、互いに愛し合っている貴族を彼らは覗いて、女王が敏感に感じてうめくまでになった時に彼らがささやきあうのが聞こえた。

59) Dewi が処女膜を失った時、驚いたことにそれはベッドの上を洪水のように満たし、髪型は崩れ芳香が漂い海の都も壊れんばかりであった。

60) Dewi は芳香を放つベッドの上にぐったりと横たわり処女膜はなくなり、Senopati は自愛のこもった目で見つめてゆっくりと Dewi を起こして二人で座った。

61) Dewi は Senopati の膝の上に座り Senopati は絶えず接吻し互いに強く抱き合い愛に満たされていた。〈306〉

62) 短い聖歌のメロディー、二人の甘い生活は七日続き、やがて Mataram 王国に帰ることになる Senopati は海中に滞在した。

63) 歌いながら Senopati はこう言った。「私の大事な人よ、幸せになってください。私は Matram に帰ります。海の宮殿に長いしすぎたから、私を待ち続けている人がいるに決まっている。

64) Mataram の人たちはすでに長く国を守ってきた」。Dewi は悲しい思いでそ

れを聞き、Senopati が帰国の挨拶をする時には悲しみのあまり泣き出してしまい月も激しく泣いたのだった。

65) その気持ちに達する前に愛する Senopati に対して膝の上からゆっくり降りた女王の忍び泣きが聞こえた。「このように、愛する気持ちは同じ。

66) あなたの愛する気持ちと同じように、例えば私が与え、あなたのすべての希望に従うことができたら、私はあなたにとって役に立つことは確かでしょう」Senopati は Ratna の涙の意味を心中で分かっていた。

67) ゆっくりと帯を解き髪飾りを付け Dewi に別れの言葉を送り、Senopati は歌いながら庭園を回るために彼女を連れだした。〈307〉

MIJIL　民間伝承による歌

1)　いとしい人よ、あなたのことを忘れてしまうことを心配にするは及ばない。僕を見て。この時から終末の時まで、ずっと愛することを誓うから。

2)　僕がたくさんの美しい妻をめとったとしても、僕の愛はあなた以外には向かわない、それは恋に狂わせたあなただけに向いた確固とした愛の印だ。

3)　僕がなぜベッドの上で常識外れのことをしたか、膝の上から離れないようにしたか、妹というより姉様、僕は本当に病気にかかっていて、いとしいあなた以外の薬はまだ得ていないのです。

4)　寂しい気分を払しょくできるもの、たとえここまでの遠い道をたどってこなくてはならなかったとはいえ、隠すつもりはありませんが、僕はそれを国民とともに待ち続けていたのです。

5)　理解を求める Senopati の甘い言葉は女王の琴線に触れ(K.248)その魔法は Dewi の元気を奪った。そして Senopati に「王子、下してください」と言った。

6)　Dewi は降りると花の上に座り Senopati にまた話しかけた。「王子、あなたに無礼すぎることをしてしまって誠に申し訳ありません」と。〈308〉

7)　これ以上のお願いはありません。本当の愛情は子々孫々替えてはなりませんし、ずっと私のものです」。Senopati はすぐに抱きすくめ Dewi はひざまづいた。

8)　「はい、いとしい人よ、心配することはなく、そうなるだろう」。Dewi は Senopati に向ってさらに続けた。「はい、王子、もし嫌な状況になって戦になった時には、私がすぐに助けに行きます」。

9)　Dewi は邂逅の最後の印としてゆっくりとうなづいて「息を止めて両手を握りしめて三回足踏みすれば、霊界の軍隊を引き連れて私が直ちに参ります。

10) より強力にするために私と一緒に軍を提供し、Telur Lungsung Jagad という名のものを提供します、彼は大きく影響を与え、必ず長寿であり、急速に強くなります。

11) Jayengkaton[6]という名の精油で私に与えられた Dewa」この二つの件は Senopati に与えられ、Senopati はこれらを受諾し、好意を追加し、戦争のための武器を得たのだった。〈309〉

12) すべての霊体によって準備ができているという宮殿から Senopati への情報を(k.249)を Dewi は再度伝え、Senopati はその情報を受け取ったあと Dewi は Senopati を親しく抱きしめたのだった。

13) 「王子、お願いをさせていただけるのなら、すぐに帰国なさらないように。私の計算では、私が待ち続けてきたようにあなたが帰国される期日にはまだ達していません」。

14) Senopati は女王を慰めて「僕の愛するいとしい人よ、あなたの気持ちはしっかとわかりましたが、ここをおいとましてあなたとお別れをしなくてはならないだけなんです。

15) いとしい人よ、悲しまないでおくれ。Mataram 王国に戻ることを許してほしい。僕を見ているこの海の乙女の下にじきに必ず戻ってくるから。

16) いとしい人と別れることに僕の心は大いに揺らいでいます。王国を守るという責務からだけなのです」。Dewi はその後 Senopati の膝を抱いて泣き崩れ「王子、すぐにここに戻ってきてくださいね」とだけ。

17) 言葉が尽きるまで Senopati は愛の言葉をつづけたのち、直ちに南海の女王は Srimanganti まで腕をからませて見送り、その時深い愛情を込めた目つきで Senopati は Dewi を見つめたのであった。〈310〉

18) 「あなたの送った魔法を受けてしまいましたわ。私が望んでいたのは恋の病の厄払いの薬としてのあなたの魔法でした」。Dewi はその愛情を Senopati に与えたのだった。

---

6 神話上の名馬

19) お返しのくちびるへのキスはゆっくりと歯までとどき、親愛の甘噛みとなったので Dewi は Senopati の行動に驚き、訪問は終わったのだった。

20) Senopati が Dewi の都を出ると死海から海は消えていて、Senopati はまるで地上を歩くように水面を歩いて進んだ。

21) Senopati が海まで来ると Parangtritis 海岸に仁王立ちしている人を警戒して見た。その人は Senopati の師匠である Sunan Adilangu であることをしっかりと感じたのだった。

22) Senopati は直ちに大師匠のところに近づき、頭を下げてあいさつした。その従順さを受け入れる印として師匠は師弟に触れ、礼儀正しく座った。

23) Sunana Adilangi は慈愛を込めてこう言った。「ここで出会ったことで君を祝福する。実際に道中で何が起きてしまったのか、私はずっと待っていたのだ。〈311〉

24) 例えばお前が陸上を歩くように海をぬれずに踏んできたというだけでも、お前は他の誰よりも霊力があるが、他人を見下してはならないことを心に刻んでおきなさい。

25) 傲慢、うぬぼれ、威張ることはダメで Hyang Manon に憎まれたり、イスラム伝道師も憎むだろう。地獄が Hyang Widi の呪いを受け入れる時、Hyang の望む通りに傲慢な発言は隠しておきなさい。

26) (k.251)傲慢な人は生意気以上である。世界の創造者である Hyang Sukma の禁忌を守る人は誰でも、傲慢とうぬぼれは人間の傲慢さであり、長所をほめてもらうことを願い、そのすべては道理に合わないのだ。

27) Hyang Widi と自分自身を合致させることで、このような人は王に向かう以外の方向に座らされる。傲慢でない自分自身に注目しなさい、惚れ魔術が見えて、しっかりとした権威をもって進めている。

28) すべての行動には心を邪魔するものはなく、魂の平安が残るだけだ。多くの振る舞いはその名ばかりになってしまってはならない。Senopati は真剣

に師匠の夢に焦点を合わせ、そして私は知識では得られない例をさらに上げよう。

29) 空や高い山や海のすべてが例であるようにお前は見下してはならない、天の与えたものの先にはいろいろな人間がいて高貴なものに頼るのである。〈312〉

30) 地の厚さとその広さこそが人間の持つ二つの性質であり、大きくて高い山々それに深い海と広々とした波、それ以外に強いものはない。

31) 彼らの強さを信用なさい、地も海も彼らで満たされ、人の性格のように天も山もその違いがなくなり、知識を持たない人には少しだけ異なる。

32) あなたが王になった時には努力を怠ってはいけない(k.252)。いとしい人よ、この地を創造した Kang Murbeng Bumi に委ねなさい、Sukma Gung (Hyang Besar Sukma)に対して味方となるから。

33) Hyang Widi の望みやすやすと従い、自分の目的に焦点を合わせ、自分勝手な気まぐれはしてはならず、信仰を持ち、女性の色香に警戒することです。

DHANGDANGGULA (Jaka TIngkir の伝記)

1) 「息子よ、お前は海から何を得てきたのか尋ねたい」。Senopati はゆっくりと「はい。食べるようにと Telur Lungsung Jagad と Minyak Jayengkaton をいただきました」。この二つは贈り物であることに Wiku は気づき、丁寧に「お前がまだそれを証明しなくてよかった。それを食べたらお前は何にでもなれるのだ。

2) 不幸な人生を得るだけで、王国を支配する王になるという欲望と失敗するに違いなく、広い海の罠に落ち、Mataram には戻れなくなり、南海の女王の夫になってしまい人間としての形をなくしてしまうから、お前の姿かたちが変わってしまうために、お前の民と家族はお前を見ることかなくなってしまう。〈313〉

3) 再度お前にはっきりと問おう。女王の美貌をお前は好きか、どういう形をしていたか」と言った。Senopati はゆっくりと「生まれてこの方見たことがないほどその顔は大変美しく、Dyah Ratu Kidul のようでした(K.253)」と答え、Wiku は微笑んで「お前は惚れ魔術にかかったのだよ、それは魔術なんだ。

4) お前は以前に見たことがなかったからで、私はその都に入ったことがあり、女王の小指から指輪を盗み、これが女王の本当の姿なのだ。むすこよ、よく見てごらん」と話した。Senopati はげんこつ大の輪のあるとても大きな指輪をみて驚いて、Senopati は平伏して注目した。〈314〉

5) Sunan Adilangu はまだ自分が躊躇しているのを感じており、Senopati の心も揺れていて、Wiku を見て「わが子よ、女王が寝ている間に帰ろうではないか、お前は後日また気に掛けることもあるから」と言い、続いて Sunan Adilangu 陛下と Senopati は海の宮殿を後にしたのであった。

6) 海の門まで来たとき、南海の女王はすでに寝ているのが分かった。仰向けに寝ていてその体は大変大きく、裸で寝ていていびきをかき、髪の毛は固まってごつごつしており、犬歯は鋭く飛び出していて、その長さは jengkal[7]

[7] 親指と中指で計った長さ・約 15cm

の三倍はあり、その乳房は垂れ下がり、Senopati は言葉が出ないほど驚いたその姿を見て恐怖のあまり震え上がった。

7) (k.254) Sunan Adilangu は Senopati に「息子よ、あれが南海の女王の本当の姿で、惚れ魔術のために美人に変身できるのだ。」と言った。「Linulu」と Hyang Agung に向い、更に変化して起きた時には一日に七回変身でき、美しくなる。もう満足したなら帰ろう。彼女が目を覚ました時に悲しむだろうが。〈315〉

8) この二人が移動し始めた後、Sunan は「おまえが南海の女王と知り合うことには邪魔しない。お前の意思が正しければ、お前次第だが、友好関係を持つ権利があり、それはジャワ島を統一することだからであり、支援を求める権利がある。

9) さあ、Matram に帰ろう、僕はお前の家に寄る」と言った。さあ、道を急ごう。Sunan Adilangu は Senopati に伴われて。彼らは道を急いで家に着くなり裏の建物を目指し、Sunan Adilangu と孫の Senopati は女王から賜った卵と香油を確認しようとした。

10) アヘンを吸引するのが好きで咳をしてやせこけた年寄り Senopati の御庭番はその症状が出ると寝ることもできず、Hyang Widi に対して超能力を依頼して、力と長寿を願い(k.255)、彼の主人が近づくと毎回このような依頼を気が遠くなるまで行い、かれは睡眠に落ちることができず寝台から降りた。

11) 腰かけた後 Senopati は「Ki Taman[8]、お前が力を望んで祈っていることを先ほど耳にした。それは本当か?Hyang Widi に病気からの快復と長寿を願ったのか」と話しかけた。

12) 「お前の願いを信じることができたら、すべての病を取り除くように人生の前提条件を与えよう。」御庭番は謝意を述べ Senopati に近づき卵を受け取り、直ちに呑み込むと庭番の体は、つむじ風のように速く回す竹製の玩具の gangsingan のように、くるくると回り大木に向った。

8 「御庭番君」

13) 庭番は小山のように大きくなり、犬歯はとがり髪は縮れ毛になり、怖がって泣いた。Sang Siki は Senopati を見て「息子よ、見てごらん、南海の女王の意思に従うとこうなるのだ」と。Senopati は七日間無言の行を続け、その姿を心にとめて反省し、Senopati は新しい山のようにすっくと立った。

14) Sunan Adilangu はすぐに「もう一つ、Minyak Jayengkaton という名の確認すべきものがある」。Senopati は了承し(k.256)、Nini Panggung という名の宮廷の乳母と Ki Kosa という名の楽師を呼ぶように命じた。しばらくしてこの二人が来てから Senopati はゆっくりとこう言った。〈317〉

15) 「私が呼んだ Bibi Panggung と試そうとしている Ki Kosa。重度の病気の際に南海の女王の贈り物の Minyak Jayengkaton を付けてみてくれ」。その命令を拒否せずに Panggung と Kosa は Minyak Jayengkaton を体に垂らすと直ちに二人とも消えてしまい、化け物になってしまった。

16) 二人が消えた後 Senopati は自分の過ちで三人の部下をなくしたことに落涙しその後ゆっくりとこういった。「Kosa と Panggung、お前たち自分を示してくれ」。彼らの答えは「ご主人様。私たちの姿が見えないとはいえ、ご主人様から香油を与えられた時以来、決まっているのは私たちはあなた様から離れないということです」。

17) Sunan Adilangu は対応して「お前たち Ni Panggung と Kosa、Hyang Agung の依頼を受け入れてくれ、お前たちは主人の身代わりになった犠牲者であり、たとえ精霊になってしまったとはいえ、将来までずっと本当の人間であることは確かで、ご主人様をお守りするのだぞ。〈318〉

18) よいか、Senopati (k.257)、お前の三人の部下である乳母の Panggung は Beringin Sepuh/tua[9]に、庭番は Merapi 山の霊体たちを支配し、王朝内の敵から守るための司令官として配置する」と。彼らのすべては Senopati 殿下の命令に従うことになった。

19) Panggung と Kosa と庭番の三人は各々の指定場所に向った。残る二人は

[9] 宮廷内にある神木になっている大木の意味だろう。

直ちに帰宅し、Senopati は海の宮殿でのことを思い出して心の中で泣き、確かに異なっていて、Sunan Adilangu はこういった。「Senopati、お前の家は塀で囲わず、曲がり角の水牛だ。

20) 牛や水牛の家畜小屋を作らずに、息子 Senopati よ、それは Mataram でのお前の傲慢さではなくお前の願いからなので、家のない牛や水牛のように、お前に対峙しようとする間違いを作り出す悪者の誰にでも挑戦し、形を成すようにしなければならない。

21) 平静と沈黙を利用するのが良い、感謝の念をもって目的に向って進み、牛と水牛が放たれた時にはその頭をつかみ、家に帰るときには十分広い家畜小屋に入れて、鍵をかけ(k.258)、夜更けに彼らが寝るまで待ち、Kang Murba (創造主)に任せるのだ。〈319〉

22) 選択して与えるようにし、王の性質にぴったり合うようにし、(王としての)知恵とともに生活するとともに、分別に基づいて Hyang Widi に委ねるようにしなさい。お前のすべての行動は祝福され、記憶にとどめられ、行動と発言は保護されるであろう。

23) 息子よ、王国が強くなるように努力し、目的を達するまでうまくいくように私が指示を追加するのを待つのだ。息子よ、水差しに水を入れる時には多すぎてはいけない」。Senopati は言った。私は素焼きの水差しのその水を取ることに従い、道具をつかって水を与えることにします、と。

24) その後、Sunan Adilangu は水の入った水差しをもって境を一周し、Senopati は水差しのひもを持ちながらその後について回った。Wiku はこう言った。「Senopati、この水の跡とともにお前の町を作るのだ。

25) 息子よ、人生の綱領ゆえに生命を受けることに祝福するのを中断してはならならず、お前が守るべきものと愛するものもすべての性質を理解し(k.259)、もし維持管理が不十分だったら、見落としなどで王国は混乱をきたし、人間が Kang Murbeng Alam から借りているだけということを感じなくなるだろう。〈320〉

26)　そして、我々は国を治めているとはいえ、お前は幽体に警戒しなくてはならず、すべては健全に、これから下すわしの忠告に従い Mataram の人たちにそれをしっかり覚えさせて健全に働き、お前の都をよくするのだ。そうでなければ最終的には廃墟になるだろう。

27)　(わが子よ、命を懸けてこれに成功した暁には王になったのも同然であり、ジャワ全土を統治し、より高位の人になり、そして本当に支配権を持つ Hyang Sukma は変化を創り出し、明るい世界を支配するようになり、いうまでもなくすべてを繁栄させ、権利のある人は、永遠(健康で平和)を教授するだろう。)

28)　そして、Widi の状況を見て、お前のすべての行為で実際の地位は上下するから、お前の望みを常に持っていれば、お前の主人は記憶の前にみられるが、(k.260)光は妨げられるのだ。

29)　Senopati は謝意を表し、Sunan Adilangu の忠告を心にしまい込んだが、それに伴う欲望ゆえに心配もあった。

(完)

訳出終了 2020/4/08